# 令和５年度　学校評価に関する報告書

半田市立有脇小学校

１　学校教育目標

（１）校訓　　楽しく・正しく・美しく

（２）めざす児童像

ア　何に対しても楽しむことができる児童

イ　きまりやマナーを守り、正しく行動する児童

ウ　自分の幸せ・みんなの幸せを考えられる美しい心をもつ児童

【 児童と職員が意識するスローガン 】

| 一生懸命はかっこええ |
|---|

２　本年度の重点努力目標

ア　教科担任制を導入した教育課程を編成することで、児童に多くの教職員が関わるとともに、教職員の専門性を生かした「知りたい・学びたい授業」をめざす。

イ　有脇地区の施設や人材をフル活用し、学校を応援してもらうだけでなく、児童が地域に積極的に働きかける行事や授業を計画・実践することで、児童の「地域の一員であるという意識」の向上をめざす。

ウ　低学年・高学年ブロックでの小規模な教職員集団を活用することで、少経験者が日常的に相談したり助言を受けたりできる体制を整え、効果的な学年運営や魅力的な授業づくりができるようにする。

エ　行事・会議等の精選・効率化、適切な担当授業時間数の設定、校務分掌の公平化、弱音を吐ける職員室づくりなどに努め、教職員がゆとりある笑顔で児童に接することができるようにする。

３　自己評価の結果

（１）本年度の重点努力目標に関する自己評価

ア　教科担任制の導入

専門の教科や得意な教科を複数学年担任することで、教科における学習内容の連続性を意識した指導や、それぞれの学年における発達段階を意識した支援ができた。また、専門性を生かした授業が展開されることで、より分かりやすく、より深い学びにつなげることができた。そのため、子どもたちも、「もっと知りたい、学びたい」という意識が高まり、主体的な活動が多く見られた。

イ　有脇地区の施設や人材をフル活用

「かいどり大作戦」のように、地域行事に学校側が参加するだけでなく、**学校（児童）発信**で地域の方々とふれ合い、地域の活性化をすることを目的として「流しそうめんプロジェクト」「石川昴弥選手応援プロジェクト」など企画・運営することができた。また、本校に隣接する「ふれあい公園」の活用は、地域の方々の思いでもあった。そこで、担任に働きかけをし、たけのこ掘り、流しそうめん、草取り活動などを計画し、地域の方の協力のもとで行うことができた。子どもが「こうしたい」という思いを発信することで、地域の方々が「一緒に」という気持ちで協力していただける体制・繋がりが強くなってきている。

ウ　低学年・高学年ブロックの活用

低学年主任・高学年主任となる担任を設置した。また、毎週金曜日を全学年５時間授業と、授業後に必ず学年部会を行う体制を整えた。職員からは、

・少経験者が「困っている」と声をあげやすい、細かい情報を確認する場面があることは、良いと思います。

・相談しやすいの雰囲気の中、やるべき指導や仕事内容を学ぶことができて大変勉強になった。

・普段から教科指導や生徒指導で悩んだときには相談に乗ってもらい支えてもらった。

など、職員間の風通しがよく、少経験者にとっては相談しやすく、ミドルリーダー・シニアリーダーにとってはよい刺激となり、学級運営や教科指導の資質・能力をお互いに高め合うことができた。

エ　働き方改革の推進

本年度、効果的であった内容は「適切な担当授業時間数の設定」である。特に半田市の会計年度職員として、専科教員を配置していただいたおかげで、全担任が毎日１～２時間の空き時間が確保でき、その時間に、これまで授業後に行っていた様々な業務を行うことができた。また、理科・外国語科の専科教員はどちらも専門性が高く、担任の負担軽減に繋がった。

（２）評価項目に対するアンケート結果等の考察

①「学校へ行くのが楽しい」の項目について、９４．５％の児童から肯定的な回答が得られた。

②「学校の授業がよく分かる」の項目について、９３．７％の児童から肯定的な回答が得られた。しかし、保護者への質問では⑫「学校は基礎・基本の定着を図る授業を行っている」で肯定的な回答が９０％あったものの、②「子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている」への回答は、７０％であった。このことは、児童の項目⑱「自分の意見や考えを進んで発表する」で７１．７％から改善の余地が見られたことと関連があるように考える。

⑨「本をよく読んでいる」について肯定的な回答が児童５４．３％、保護者３２．２％と低く、不十分と感じていることが分かる。

⑬⑱本年度から児童のアンケート項目に加えた⑬「自分のよさがわかり生活に生かしている」が８１．１％⑱「幸せについて考えたり感じたりしている」が８８．２％であった。

（３）改善のための方策

①「学校へ行くのが楽しい」について、児童の項目⑯「先生は自分のことを分かってくれる」も肯定的な回答が９４．５％であったことから、多くの児童が安心して登校できていることが分かる。これからも、児童に寄り添い、教室が安心して過ごせるように努めていく。

②「学校の授業がよく分かる」について、現在「もっと知りたい・学びたいと思う児童の育成」に取り組んでいる。基礎・基本から、さらに一歩進んで、思考力や表現力を身に付けられるように、教育活動をすすめていく。

⑭「本をよく読んでいる」について、学校応援団の方々による読み聞かせや、学習委員会による図書館まつり、半田市立図書館によるブックトークや半田電子図書館の活用など、新たな取組も含めて、読書に親しむ機会を多く設けている。さらに読書の習慣が身に付くように本の魅力を伝える活動を進めていく。

4　学校関係者評価の結果

（１）学校関係者評価に関する委員等

・３学期の学校運営協議会を学校関係者評価委員会と兼ねて、学校評価アンケートの結果について説明し、意見をいただいた。

・委員は、元区長２名、公民館長、児童館長、長生会会長、その他有識者４名にお願いした。

（２）自己評価の結果と改善のための方策についての評価結果

学校運営協議会での授業参観の様子から、子どもも先生もとても活発に活動しており１年の成果が表れていた。学校の教育目標である、一人一人のよさを生かした教育活動が浸透してきているとの評価をいただいた。また、教科担任制や隣接のふれあい公園の活用を含めた地域との連携についても、とてもよい取組であるため、来年度もこれらの取組をさらに進めてほしいとの意見をいただいた。

5　自己評価及び学校関係評価に関する公表

（１）保護者に対する公表方法

・アンケート結果を文書とｔｅｔｏｒｕで配付

（２）地域に対する公表方法

・学校ホームページへの掲載

6　次年度の重点努力目標や具体的な取組への反映

（１）子ども・先生の「よさ」や、小規模校の特長を生かす。

・教職員の専門性を生かした教育課程（教科担任制）の整備と、児童のよさを生かした授業づくりの研究を推進することで、児童が「もっと知りたい・学びたい」と思う授業をめざす。。

（２）地域に支えられ、地域を支える学校をつくる。

・地域の関係機関や学校運営協議会との連携を深化することで、有脇地区の施設や人材を活用した行事・授業の一層の充実を図り、児童の「地域の一員であるという意識」を向上させる。

（３）互いに認め合い高め合う教職員集団を育成する。

・低学年・高学年ブロックでの小規模な教職員集団を軸に、少経験者が日常的に相談・助言を受けたり、情報を共有したりできる体制を整えることで、効果的な学年運営や魅力的な授業づくりを進める。

（４）教職員が心身ともに健康な状態で勤務できるよう、働き方改革を推進する。

・行事・会議等の精選・効率化、適切な担当授業時間数の設定、校務分掌の公平化、弱音を吐ける職員室づくりなどに努め、教職員がゆとりある笑顔で児童に接することができるようにする。